

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

友達とよりよい人間関係を形成するには、相手のことをよく知る必要があります、相手の話をしっかり聞くことが大切であることを理解させる。

### ◆評価

相手の話を聞くことで、相手のことを理解しようとしている。

### ◆教育課程における位置付け

#### 特別活動

※国語科における「話すこと・聞くこと」との関連を図ることができる。

※同様の機会を複数回もつことで、児童同士の理解をさらに深めることができる。

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版 心あかるく』
- ・振り返りカード

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
変 身	1 絵や写真を見て、何をしているのかを考える。	○『心あかるく』98、99ページに掲載している内容を使用する。
	2 本時の学習を知る。	
展 開 30 分	ともだちのことをもつとしよう。	
	3 教師の例を見て、自分の話す内容を決める。 ・友達と一緒に遊んだことや学習したことを通して、元気が出たことを教材集に記入する。	○ 友達との関わりの中で、元気が出た内容を短い文で書かせる。 ○ 話すことが苦手な児童もいるため、教師が話す内容の例を示す。 ○ 学級の実態に応じ、【話す人の例】や【質問の観点】を板書で示したり、カードにして配布したりして児童に参考にさせてもよい。
	【話す人の例】 私は、今日の休み時間に、なわとびをしました。場所は、校庭です。友達の〇〇さんと一緒にやりました。はじめは、前跳びや後ろ跳びをしました。50回以上続けて跳べたことがうれしかったです。	
	4 活動について教師の説明を聞く。	○ 活動に入る前に、教師が2人組での活動の仕方を示す。一方の役は、児童にやらせてもよい。
	【聞く人の質問の観点の例】 いつ、どこで、誰と、何を、どんな気持ちでしたか、明日は何をするか、など	
	(1) 2人組でじゃんけんをする。 (2) 勝った人は、話す人となり、休み時間に誰とどんな遊びをしたのか、何が面白かったのかなどについて話す。 (3) 負けた人は、聞く人となる。 ① 自分のことについては話さないでうなずいて聞く。 ② 話の途中で、「知っている」と言ったり「どうして」と尋ねたりしない。 ③ 話す人が話し終わったら、質問をする。 (4) 役割を交替して、繰り返す。	○ 人数が足りないときは、教師が入る。 ○ 話す人と聞く人の区別をはっきりさせ、きちんと自覚させる。 ○ 早く話し終わってしまう場合は、もう一度丁寧な、内容を付け加えて話すように促したり、質問させたりする。 ○ 聞く人の態度が重要であることを伝える。
	5 2人組で実際に行う。(3分程度ずつ) 6 ほかの2人組と一緒に、4人グループを作り、自分が聞いた友達の話を新しくグループになった友達に話す(3分程度ずつ)。 7 友達の話を聞いてどう感じたかを最後の2人組で話し合い、学級全体に発表する。	○ 活動が早く終わった2人組から話し合いをさせる。
	8 本時について感じたことを振り返りカードに書く。 ・友達のことをたくさん知ることができた。	○ 「友達の話をよく聞いたことで、友達をもっとよく知ることができた」、「友達が私の話をよく聞いてくれてうれしかった」などの内容が出るとよい。
ま と め 10 分		

板書例

ともだちのことをもっとしよう。

○えやしやしんをみて、なにをしているか、かんがえよう。

- みんな木の上でたのしそう。
- 一人ん車やボールであそんでいるね。
- みんな、なかがよさそう。



○ともだちのことをもっとしよう。

ふたりぐみでじゃんけんをする。

かけた人

↓はなす人

(休みじかんにあそんだこと)

まけた人

↓きく人

【きく人のやくそく】

- うなずいてきく。
- はなしのとちゅうで「しっている」といったり「どうして」とたずねたりしない。
- はなす人がおわたたら、しつもんしてよい。

○ともだちのはなしをきいて、かんじたこと

- ともだちのことをたくさんしることができた。
- ともだちのはなしをしんげんにきくことができた。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 どのような話し方・聞き方ができるとよいかグループで話し合う。</p> <p>2 グループ内で発表する。</p> <p>(1) 発表のテーマ（好きな動物、好きな遊び等）をグループで決める。</p> <p>(2) グループ内でじゃんけんをして、発表順を決める。</p> <p>(3) 発表順に、テーマに沿って自分の考えを発表する。</p> <p>3 時間があれば、テーマを変えて発表を行う。</p>	<p>○ 発表の際のルールを守って活動できるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>話す人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見て最後まで話す。</li> </ul> <p>聞く人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を見てうなずいて聞く。</li> </ul> </div>

資料等

○振り返りカード（例）

ともだちのことをもっとしよう

なまえ \_\_\_\_\_

○ともだちのことをして、どうおもいましたか。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○授業で使用するイラスト等



『心あかるく』98、99 ページ

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションを行う上で、言葉で伝えることに加え、相手の動きや表情をよく見たり、よく聞いたりして、相手が話したいことを知ろうとすることも大切であることを理解させる。

### ◆評価

相手に気持ちを伝えるにはどうすればよいかを考えて話し合う活動を通して、話を聞く態度や方法について理解している。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

※社会科における「調べたことを伝え合う活動」等との関連を図ることができる。

### ◆主な使用教材

・ワークシート

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	<p>1 インタビューを通して、友達を紹介する学習であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達が興味をもっていることを聞きたい。</li> <li>・ 友達の得意なことって何だろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 難しそう、できないなどの反応が出るのが予想されるが、不安にならないようにし、楽しい雰囲気を作る。</li> <li>○ 教師と児童でインタビューを実演し、何をすればよいか分かりやすくする。</li> </ul>
	インタビューして分かった友だちのことを紹介しよう。	
展開 30分	<p>2 インタビューをする。</p> <p>(1) 2人組になった人と順番に、相手の好きなこと、もの、宝物などについてインタビューしてカードにメモする。</p> <p>(2) どのように話を聞いてもらうとうれしかったかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うなずいて聞いてくれた。</li> <li>・ にこにこしてくれた。</li> <li>・ 楽しそうに聞いてくれた。</li> </ul> <p>3 他者紹介をする。</p> <p>近くにいる2人組と4人グループになり、先ほどインタビューした内容をほかの2人に他者紹介する。</p> <p>4 他者紹介をして感じたことをグループ内で発表する。</p> <p>5 グループ内で発表したことを学級全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インタビューする内容は事前にワークシートに記入しておき、スムーズにインタビューをすることができるようにする。</li> <li>○ 時間が余ったら、自分の聞きたいことについてインタビューしてもよいと伝えておく。</li> <li>○ 相手が答えにくい質問はしないように指示する。</li> <li>○ よい聞き方を意識して紹介を聞くよう促す。</li> <li>○ 聞いている人は、なかなか自信をもって話せない人に対して温かく受け入れられるようにする。</li> <li>○ 何人かに発表させ、話を聞く態度や方法について価値付ける。</li> </ul>
まとめ 5分	<p>6 学習を振り返る。</p> <p>話をよく聞くための方法を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに書いた感想と結び付けてまとめる。</li> </ul>

板書例

インタビュアーして分かった友だちのことをしようかいしよう。

○インタビュアーで友だちに聞いてみたいこと

- ・今、きょう味をもっていること
- ・とくいなこと

○インタビュアーのやり方

二人組になった人とじゅん番に、相手のすきなこと、すきなもの、たから物などについてインタビュアーして、カードにメモする。

○どんなふうに話を聞いてもらうとうれしかったか。

- ・うなずいて聞いてくれた。
- ・ここにこしてくれた。
- ・楽しそうに聞いてくれた。

友だちのことをしようかいしよう。

- ・自分が聞いたことをほかの人に発表することは、自分のことを発表するときよりもきんちょうした。
- ・ほかの人に自分のことをしようかいしてもらって、うれしかった。

○学習のふり返し

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 隣の席の児童と、順番に「好きな遊び」について話す。</p> <p>(1) はじめに相づちを打ちながら話を聞く。</p> <p>(2) 次に、相づちを打たないで、相手をじっと見て話を聞く。</p> <p>(3) 最後にもう一度、相づちを打ちながら話を聞く。</p>	<p>○ ルールを守って活動できるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;活動のルール&gt;</p> <p>話す人：最後まで話す。</p> <p>聞く人：「相手がしてもらったらうれしいだろうな」と思う相づちを打ちながら聞く。</p> </div>
	<p>2 近くの2人組と4人グループになり、2人が話している様子を、他の2人が観察する。</p> <p>(1) 1と同様に、「好きな○○」について話す。</p> <p>(2) 観察児童は感じたことを発表する。</p>	<p>○ 観察している児童に、話す人と聞く人の態度や行動に着目して観察することを伝える。</p>
	<p>3 学級全体で活動の感想を話し合う。</p> <p>(1) 相づちを打ちながら聞いてもらってどう感じたか。</p> <p>(2) 相づちを打たれないとどう感じたか。</p>	<p>○ 相づちを打つことの大切さに気づき、コミュニケーションのもつ「お互いを大切に」力が実感できるように配慮する。</p>

資料等

コミュニケーション能力の捉え方とその育成

- コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話して情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要である。
- ミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し、理解すること、②他者意識を通して自己の存在を見つめ、思考すること、③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと、④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある。

参考：文部科学省『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために』平成23年8月

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションを図ることで、互いに意思や感情、思考を伝え合うことや、新たな考えに気付いたり、考えを深めたりできることを理解させる。

### ◆評価

自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動を通して、コミュニケーションの大切さについて気付いている。

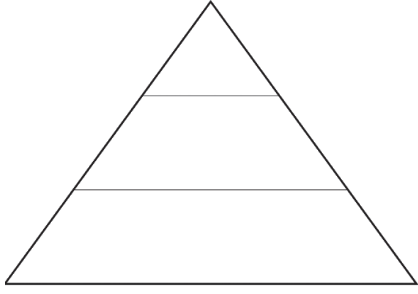
### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・ワークシート
- ・掲示用ルール
- ・付箋紙

### 展開例

	学習活動（・児童の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 本時の学習のねらいを知る。	○ いじめの防止に関わるテーマを設定する。
	いじめをなくすために必要な取組について話し合おう。	
展開 30分	2 「いじめられている人はどうしてほしいと思うか」、「いじめを防ぐために何が大切だと思うか」などの視点で、いじめをなくすために必要な取組を考え、簡単な言葉で付箋紙に書く。	○ 必要に応じて、状況を示すイラスト等を活用し、考える手だてとする。 ○ 付箋紙にできるだけ多く書くよう伝える。（個人活動） ○ 黒板にルールを掲示する。
	3 ピラミッド・チャートについての説明を聞く。	
展開 30分	<p>【ピラミッド・チャート】…グループでそれぞれの考えを高め、まとめていく思考ツールの例</p> <p>① まず、個人でテーマに対して考え、一つの考えごとに1枚の付箋紙に書く。その後、グループ全員の付箋紙をピラミッドの形の図の一番下の部分に全て貼る。</p> <p>② 4人程度のグループで話し合い、大事なものを選んだり、組み合わせで新しい考えを出したものを付箋紙に書いたりして、中央の段に貼る。</p> <p>③ 中央の段に貼られた付箋紙について話し合い、グループの意見として考えをまとめる。グループの意見を付箋紙に書いて、一番上の段に貼る。</p>	
	4 グループで「いじめをなくすために必要な取組」について、ピラミッド・チャートを行う。	○ 順位付けの根拠や理由を説明できるように考えさせながら作業をさせる。 ○ グループ内で、自分の考えと他の人の考えの同じところや、違うところに注目するよう助言する。
まとめ 5分	5 グループごとに、ピラミッドの頂点に立った主張とその理由を発表する。	○ 他グループの主張と自分のグループと比べながら聞かせる。
	6 自分たちでいじめをなくすために今日からできそうなことを決め、宣言する。	○ いくつかのグループに発表させる。

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

保護者プログラム

地域プログラム

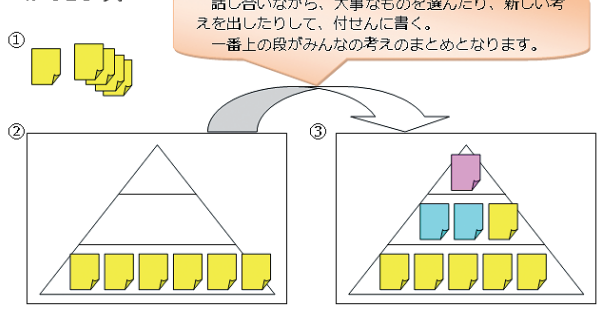
板書例

○学習の振り返り

- ・ 一人一人がいじめをなくそうと意識し、行動すること
- ・ 相場の立場に立って気持ちを考えること
- ・ 見て見ぬ振りをしないようにすること
- ・ 一人でなやまず勇気を出して助けを求めること
- ・ お互いに支え合うこと
- ・ みんな平等だと思ひ、相手を大切にすること

○グループごとに考えた「いじめをなくすために必要な取組」

<ピラミッド・チャートの使い方>  
 ① いじめをなくすために必要なことを考え、一つの考えごとに1枚の付せんを書く。  
 ② ピラミッド・チャートの一番下の部分に全て貼る。  
 ③ グループで大事なものを選んだり、組み合わせたりして、新しい考えを出したものを付せんに書き、ピラミッド・チャートの真ん中の段に貼る。初めの付せんより数が少なくなるようにする。  
 ④ 真ん中の段に貼られた付せんについてグループで話し合い、考えをまとめて付せんに書き、一番上の段に貼る。  
 ※ この作業を行うことによって、みんなの考えを整理してまとめることができます。



いじめをなくすために必要な取組について話し合おう。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	1 グループで「いじめをなくすために必要な取組」について、ピラミッド・チャートを行う。	○ 順位付けの根拠や理由を説明できるように考えさせながら発表の準備をするよう伝える。
	2 グループで発表者を一人決め、残りのメンバーは隣のグループに移動する。	○ 発表グループと聞くグループに分かれ、1グループ3分程度で発表する。時間が余ったら、質問してもよいことを伝える。
	3 発表者から説明を聞いた後、そのグループが作成したピラミッド・チャートについての質問や意見を述べる。	○ ほかのグループの主張とその理由を、自分のグループと比べながら聞かせる。
	4 初めの発表者以外の発表者を決め、残りのメンバーは更に隣のグループに移動する。	○ 発表グループの児童は、質問内容を伝え、聞くグループの児童は、ほかのグループの良かったところや自分のグループと違う意見を伝えるように声を掛ける。
	5 自分たちのグループに戻り、ほかのグループから寄せられた意見等を基に、更に話し合う。	○ ほかのグループからの意見を参考に更に考えを深められるよう助言する。

## 望ましい人間関係の構築

### ◆学習のねらい

コミュニケーションにおいては、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことや、相手の考えを尊重して話し合うことが大切であることを理解させる。

### ◆評価

自分の思いや意見を伝えながら、相手の意見を尊重することの大切さに気付いている。

### ◆教育課程における位置付け

特別活動

### ◆主な使用教材

- ・東京都教育委員会『令和2年度 東京都道徳教育教材集 中学校版 心みつめて』
- ・掲示用ルール
- ・単語カード（個人用、グループ用）
- ・ワークシート（個人用、グループ用）

### 展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 10分	1 『心みつめて』146ページを読み、人によって捉え方が異なることを理解する。 2 本時の学習を知る。	○ 『心みつめて』146ページから、これまでの話し合いなどでも自分の考えや思いが友達と違ったことを振り返らせる。
行事を行う上で大切だと思うことを考え、話し合おう。		
展開 30分	3 学級全体で学校行事を一つ選び、その行事を行う上で大切だと思うカードを、個人で順位を付けて並べる（「ダイヤモンド・ランキング」の方法については「板書例」を参照）。 4 4人グループになって話し合い、グループのダイヤモンド・ランキングを作成する。 5 グループごとに、合意したカードの位置付け及びその理由を発表する。	○ 話し合う際は、以下のことを確認する。 ① 全員の考えをきちんと最後まで聞く。 ② 考えが自分と違って「それはおかしい。」「間違っている。」などと言わない。 ③ 多数決では決めない。 ④ 少ない意見も大切な考えであり、新しい発見があるかもしれないのでよく聞く。 ⑤ 強く意見を言う人の言いなりにならない。 ⑥ ほかの人の考えを聞いて、なるほどと思ったら自分の考えを変える。
まとめ 10分	6 集団による意思決定を行い、気付いたことを発表する。 ・ 友達と話し合うことで、考えは違っていても、相手のことがよく分かった。 ・ 自分では気付かなかった考えを知ることができた。 7 東京都道徳教育教材集『心みつめて』147ページを読み、本時の学習内容を振り返る。	○ 自分とは違うものの見方や考え方に触れることで、自分の心が成長することを捉えさせる。 ○ 机間指導を行い、「意見がそれぞれ違う」という視点をもった生徒を選んでおく。 ○ 『心みつめて』の147ページ下の欄に自分の考えを記入させる。 ○ 意見が違うときに話し合ったことや、他の人の意見を聞いてなるほどと思った気持ちが大切であることをまとめとして押さえる。

板書例

行事を行う上で大切だと思ふことを考えよう。

○テーマ

合唱コンクールで大切だと思ふこと

○ダイヤモンド・ランキングの方法

- ① 9種類のカードを大切だと思ふものから順位を付け、ダイヤモンドの形に並べる。
- ② グループになり、それぞれカードの位置付けについての理由を説明した後、グループ内でカードの順位を話し合っって決める。
- ③ グループごとに話し合っって決めたカードの位置付けと、その理由を発表する。

【話し合いの約束】

- ・全員の考えをきちんと最後まで聞く。
- ・考えが自分と違っっても「それはおかしい」「間違っっている」などと言わない。
- ・多数決では決めない。
- ・少ない意見も大切な考えであり、新しい発見があるかもしれないのでよく聞く。
- ・強く意見を言う人の言いなりにならない。
- ・ほかの人の考えを聞いてなるほどと思ったら自分の考えを変える。

○ダイヤモンド・ランキングを通して気付いたこと

- ・友達と話し合うことで、相手のことがよく分かった。
- ・自分では気付かなかった考えを知ることができた。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 30分	<p>1 自分たちの学校のよいところについて考え、グループ（班）で交流する。</p> <p>2 「より良い学校づくり」をテーマに、「ダイヤモンド・ランキング」を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【カードの内容例】 「特別の教科 道徳」の内容項目等を参考に9種類のカードを用意しておく。 (思いやり、感謝、礼儀、友情、信頼、相互理解、寛容、公德心、公正・公平 等)</p> </div> <p>(1) 個人で考え、自分の意見をもつ。 (2) グループ内で伝え合い、グループの意見をまとめる。 (3) 学級全体で、各グループの意見を伝え合う。 (4) 全体の意見を見て、分かったことを伝え合う。</p>	<p>○（導入を受けて）ここでも自分とは違うものの見方や考え方があることに気付かせる。</p> <p>○「話し合いの約束」（「板書例」を参照）を確認した上で、活動させる。</p>

資料等

○行事「合唱コンクール」を例に取り上げた場合のワークシート（例）

合唱コンクールのダイヤモンド・ランキング

合唱コンクールで大切だと思ふことをランキングにしてください。

順位	カード	自分の理由	グループの理由 (自分とは違う、なるほどと思っった)
	① 練習量 (どのくらい練習したか。)		
	② 団結力 (みんなの心が一つになったか。)		
	③ 責任感 (自分の役割を果たせたか。)		



◆学習のねらい

言葉や感情表現によって相手への意思の伝わり方が異なることを理解させるとともに、自分の意思を正しく伝え、受け止めてもらえるような表現を行っていかうとする態度を育てる。

◆評価

3種類の自己表現（攻撃的、アサーティブ、非主張的）についての活動を通して、自他を尊重する望ましい自己表現の方法について理解している。

◆教育課程における位置付け

特別活動

◆主な使用教材

・ワークシート

展開例

	学習活動（・生徒の発言例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習を知る。	
	望ましい自己表現とはどのようなものかを考えよう。	
展開 35分	<p>今日は、自分も相手も大切に自己表現であるアサーションという考え方を通して、望ましい自己表現について、考えていきましょう。</p> <p>2 場面1「あなたならどうする？」を行う。</p>	<p>○ コミュニケーションがうまくいかずに、嫌な思いをしたことがないか想起させる。</p> <p>○ 表情、身振りや手振り、姿勢等がコミュニケーションに与える役割について考えさせ、生徒が前向きな気持ちになるようにする。</p> <p>○ 1分程度でワークシートの場面1に取り組ませる。</p>
	<p>3 アサーションについて説明を聞く。 攻撃的(アグレッシブ)な表現、アサーティブな表現、非主張的(ノン・アサーティブ)な表現について確認する。</p> <p>4 三つのタイプの自己表現を更に理解するために、場面2「映画を見に行こうよ！」を行う。</p>	<p>○ 場面1の三つのタイプの自己表現が、【資料等】に示す三つの自己表現であることを踏まえて確認する。</p> <p>○ 生徒から自然に意見を引き出し、アサーションの考え方から説明させる。</p> <p>○ 自己表現の違いによって、他者に与える印象の違いがあることを考えさせる。</p>
	<p>5 発表を行い、意見を述べ合う。</p>	
まとめ 10分	<p>6 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アサーションの考えを生かして、学校生活を送りたいと思う。</li> <li>・ 言い方によって、相手の受け止められ方が変わってくるのが分かった。</li> </ul>	<p>○ 気付いたり、感じたりしたことを記入させる。</p>
	7 ワークシートにまとめを記入する。	

板書例

望ましい自己表現とはどのようなものかを考えよう。

○アサーションとは・・・

↓自分の欲求、考え、気持ちなどを、素直に、正直に、相手のことも配慮しながら、その場の状況に合った適切な方法で表現すること

【場面1】『あなたならどうする？』

※選択肢の中から、「自分ならこうする」というものを選ぶ。

○自己表現の三つのタイプ

攻撃的（アグレッシブ）な表現  
アサーティブな表現  
非主張的（ノン・アサーティブ）な表現

【場面2】『映画を見に行こうよ！』

※友人に対して、三つのタイプの自己表現で対応する。

○三つのタイプの自己表現を発表しよう。

○活動を振り返って

- ・アサーションの考えを生かして学校生活を送りたいと思う。
- ・言い方によって、相手の受け止められ方が変わってくるのが分かった。

発展的な展開例

	学習活動	○指導上の留意点
展開 35分	<p>1 アサーション（適切な自己表現）について説明を聞く。</p> <p>2 相手にうまく気持ちを伝えられなかった経験について、話し合う。</p> <p>3 アサーションの考え方を生かし、どのような話し方なら、相手も自分も尊重して思っていることを伝えられるかを検討する。</p>	<p>○ 教師の体験談を例として伝え、話合いの見通しをもてるようにする。</p> <p>○ 3、4人ほどのグループで話合いを行わせる。</p> <p>○ 相手を大切にしながら、自分の思いをきちんと伝えるという点を踏まえて指導に当たる。</p>

資料等

○ワークシート（例）

アサーション：自分の欲求、考え、気持ちなどを、率直に、正直に、相手のことも配慮しながら、その場の状況に合った適切な方法で表現すること ※アサーティブとは、アサーションが実現されていること

自己表現（人間関係のもち方）には三つのタイプがあり、②のタイプをアサーションと考える。

① 自分のことを優先し、他者を無視・軽視する自己表現  
「攻撃的」「アグレッシブ」「きつい言い方」 I am OK, You are not OK

② 自分のことをまず考えるが、他者のことも十分に配慮する自己表現  
「アサーティブ」「さわやかな言い方」 I am OK, You are OK

③ 自分よりも他者を優先し、自分のことを後回しにする自己表現  
「非主張的」「ノン・アサーティブ」「はっきりしない言い方」 I am not OK, You are OK

**場面1 「あなたならどうする？」**

卒業後の進路についての三者面談を翌日に控えて、あなたは保護者と進路について話をしています。あなたは、技術を身に付け資格を取得するために専門学校へ進学したいと考えていますが、保護者は、「卒業後は大学に行きなさい。」と勧めます。このようなとき、あなたならどうしますか。「自分ならこうする」というものを選んで、□に印を付けましょう。

1 「うるさいな！大学になんか行かないよ！」と怒って、どなりつけるように自分の意見を保護者に言う。

2 自分の意見を言うと保護者に反対されたり怒られたりするから、何も言えずに黙ってしまう。

3 「大学に進学するよりも、専門学校に行きたい。その理由は、…」と自分の意見や考えを保護者に伝える。

**場面2 「映画を見に行こうよ！」**

あなたは、友人と今度の日曜日と一緒に遊びに行くことになりました。友人は、「是非見たい映画があるから一緒に見に行こうよ。」とあなたに提案しました。しかし、その映画は、あなたが見たくない映画でした。友人に対して、3種類の表現で対応してください。

◆学習のねらい

コミュニケーションとは、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことであり、言葉や文字だけでなく、声の大きさや話し方や態度などが大きな役割を果たすことを理解させる。

◆評価

相手と意思疎通し、望ましい人間関係の構築方法について理解している。

◆教育課程における位置付け

国語、(保健)体育、自立活動等

◆主な使用教材

- ・ 2枚1組のカード
- ・ 掲示用模造紙 (各児童・生徒用の欄が作成されているもの)
- ・ 画用紙 (B6用紙の大きさのものがよい。)
- ※画用紙は、学級の実態に応じて付箋などに代えてもよい。

展開例

	学習活動 (・児童・生徒の発言例)	○指導上の留意点
導入	1 本時の学習を知る。	
	相手に協力し、気持ちを伝え合おう。	
	2 コミュニケーションとは何かを考える。 (1) コミュニケーションは、人が社会生活を営む上で必要不可欠なものであることを理解する。 (2) コミュニケーションの手段は言葉が中心であるが、言葉だけではないことを知る。 ・ 顔の表情でも気持ちを伝えられる。 ・ 言葉を使わないと難しい。	○ めあて・内容等を視覚的に示す。 ○ 一方的に教師の話聞くだけでなく、質問したり、それに答えたりして、相互的コミュニケーションを進めていく。 ○ T1は授業を進め、T2は児童・生徒の支援を行う。 ○ 言葉のほかに、どのようなコミュニケーションの手段があるのかを考えさせる。 ○ 例として、複数の顔の表情で挨拶をした時、相手にどのような印象を与えるかを考えさせる。
3 挨拶のロールプレイングなどを例にして、今日の授業の主な活動がコミュニケーションを用いたゲーム活動であることを理解する。		
展開	4 活動のルールの説明を聞く。	○ ルールを理解させる。
	<p>&lt;ルール&gt;</p> <p>① 2枚1組のカードを教室にばらばらにして置く。 ② 各自が1枚だけカードを拾う。 ③ 自分とペアになるカードを持っている人を探す。 ④ ペアの相手と会釈やアイコンタクトをして得意なことをそれぞれ一つ伝える。 (※「得意なこと」としているが、学級の実態に応じて「相手の良いところ」などと変えてもよい。) ⑤ ペアの相手の得意なことを画用紙に書き、児童・生徒の実態に応じ、握手等をして渡す。 (「相手の良いところ」等に変えた場合は、お礼を言うようにするとよい) ⑥ 掲示用模造紙まで行き、自分の箇所にカードを貼る。 (以下、②から⑥までを複数回繰り返す。)</p>	
	5 教師のやり方を見る。	○ なるべく自分で考えさせるようにするが、うまくいかない場合は、教師が視覚的に分かりやすく説明をする。
	6 ペアを探す活動を行う。	○ 必要に応じて、教師がモデルを示す。
まとめ	7 協力しようとしていたか、意思疎通ができていたかについて教師の評価を聞き、活動を振り返る。	○ ねらいについてのみ評価する。

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例

保護者プログラム

地域プログラム

板書例

相手に協力し、気持ちを伝え合おう。

○コミュニケーションとは何か

- ・自分の考えを相手に伝えること。
- ・話し合うこと。

↓コミュニケーションの方法は言葉だけでなく、いろいろな方法がある。

- ・顔の表情でも気持ちを伝えることができる。
- ・言葉を使わないと難しい。

○コミュニケーションを用いたゲーム活動をしよう。

【活動のルール】

- ①一枚だけカードを拾う。
- ②自分とペアになるカードを持つている人を探す。
- ③ペアの相手を見付けたら、得意なことをそれぞれ一つ伝える。
- ④ペアの相手の得意なことを画用紙に書き、握手をして渡す。

○活動を振り返ろう。

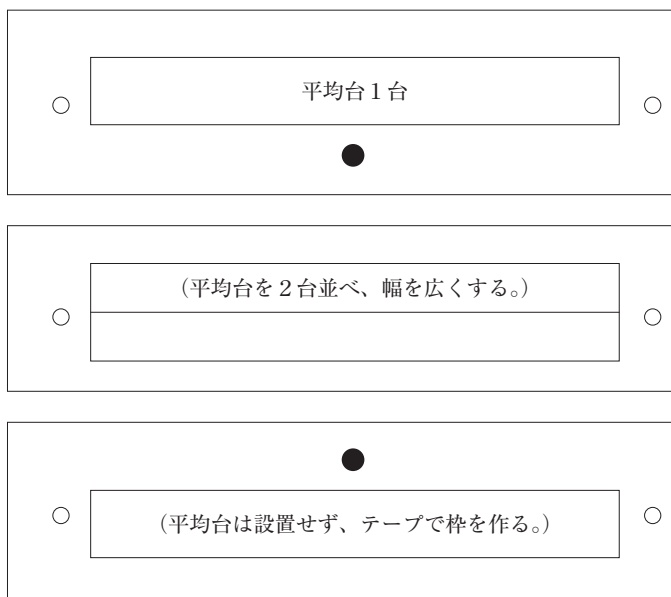
資料等

○その他の実践例 1

平均台の両端に一人ずつ立ち、平均台の反対側まで様々な方法ですれ違い、二人とも落ちないで渡る。本実践は、ルールをはっきりと意識させることがポイントである。近くにいる教師は、児童・生徒がうまくいくよう言語指示し、身体介助をする。また、すれ違う方法は教師が指示するのではなく、なるべく自分で考えさせるようにする。

場の設定の図（体育館やプレイルーム）

複数の教師で対応し、コースの難易度別に分けた場を設定する。



(ルール)  
 ・すれ違いは自由とする。  
 ・失敗しても相手のせいにはしてはいけない。

▲コーン Aグループ

▲コーン Bグループ

▲コーン Cグループ

マークについて  
 (●教師 ○児童・生徒 ▲コーン)

○その他の実践例 2

【お助けおにごっこ】<ルール>

- 1 お助けマン役とおにごっこ役を決める。
  - ・ お助けマンは、帽子をかぶる。
  - ・ おにごっこには、たすきなどを掛ける。
- 2 ほかに人はおにごっこに捕まらないように逃げる。
  - ・ おにごっこにタッチされたら、その場で止まる。
  - ・ お助けマンにタッチされると動けるようになる。